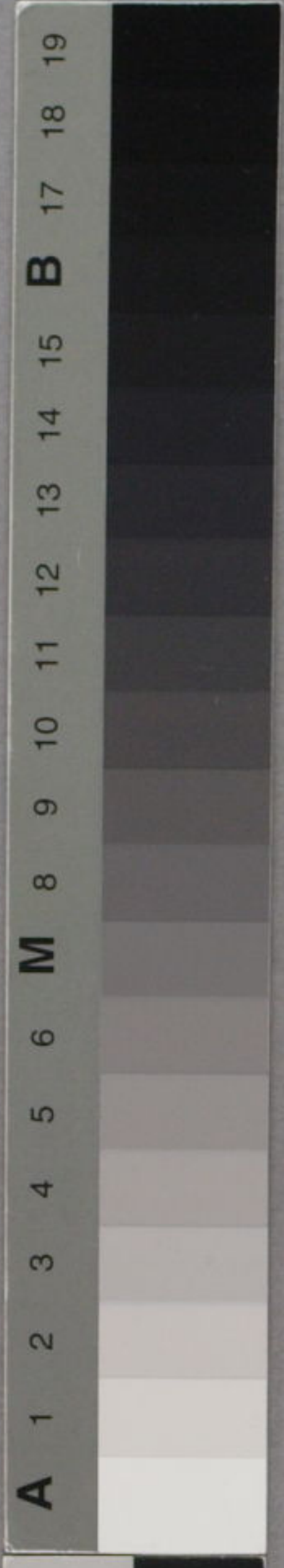


天地有徳の夕まを  
わが 驕奢の夢さめて  
風樹 いか 跡も なく  
花も ちほひも 夕月も  
うつ、は 脆き 世の 世や  
岸上の 霞たうりて  
縫う 仙女の 綾ごうも  
袖ふ あらう ほんらととも  
自然の 胸を れるが 七  
響く 微妙の 糸の 声  
その 一音は 二ふあり。

晩華

天地有徳の夕まをくさ  
わが驕奢の夢さめて  
鳳棲いつか跡も無く  
花も子ほひも夕月も  
うつしは脆き玉の世や  
岸上の霞たぢりたりと  
縫子仙女の綾ごろも  
袖ふあらはつらととも  
自然の胸をゆるがして  
響く微妙の葉の声  
その一音はこゝろあり。

晩華



土井晚翠詩稿暮鐘一節



特別  
文庫14  
B99

土井晚翠筆詩稿暮鐘一節

わが著續明治文學史上卷(昭和十八年刊)所収原稿

本問久村



合